

参考文献

- 1) 安梅勅江他「ケアマネジメント専門性評価モデル試案の妥当性と信頼性および社会福祉士の自己評価の特徴」老年社会科学, Vol. 20, No. 1, 1998. 6.
- 2) 安梅勅江「訪問看護職のケアマネジメント関連項目に対する自己評価の特徴に関する研究」日本公衆衛生誌, Vol. 45, pp. 713-721, 1998.
- 3) 安梅勅江「ケアマネジメント専門性評価モデル試案の妥当性と信頼性および社会福祉士の自己評価の特徴」老年社会科学, Vol. 20, No. 1, 1998, 6.
- 4) ビル・ウォーレル著 ; 河東田博訳編『ピープル・ファースト支援者のための手引き : 当事者活動の支援と当事者参加・参画推進のために』現代書館, 1996.
- 5) 知的障害者ケアマネジメント研究会監修『障害者ケアマネジメント養成テキスト』中法法規, 2000.
- 6) Debbie Lam : Problem-Based Learning : An Integration of Theory and Field, Journal of Social Work Education Vol.40, No3, 2004.
- 7) 橋本泰子・竹内孝仁・白澤政和監修『ケアマネジメント講座3 海外と日本のケアマネジメント』中央法規, 2000.
- 8) Heather D. Hadjistavropoulos, et. al: Development of a Case Management Questionnaire, Care Management Journals, Vol. 4, No. 1, 8-17, 2003.
- 9) 畑智恵美, 岡田進一, 小澤温, 白澤政和「在宅介護支援センター職員のケアマネジメント実践—ケアマネジメントプロセスに基づいた援助行動の内容—ケアマネジメントにおける連携技術に関連する要因」, 『老年社会科学』22(1), 59-71, 2000.
- 10) 鳩野洋子「保健婦のための参加型研修の試み—プリシード・プロシードモデルを用いて」『公衆衛生』Vol. 65, No. 10.
- 11) 原田千佳子「ゴール達成スケール(GAS)」, OTジャーナル 38(7) : 00 - 00, 2004.
- 12) 北海道支部平成 15 年度年次総会添付資料「平成 14 年度北海道支部研修会実施状況」, 精神保健福祉, Vol. 34, No. 2, 2003.
- 13) James L. Wolk, et. al : The Managerial Nature of Case Management. Social Work, Vol. 39, No. 2, 152-159, 1994, 3.
- 14) John H. McGrew, Ph. D. Bernice Pescosolido, Ph. D. Eric Wright, Ph. D. : Case Managers' Perspective on Critical Ingredients of Assertive Community Treatment and on Its Implementation. PSYCHIATRICES, March 2003, Vol.54, No3.
- 15) 北川明子, 野中猛「ケアマネジメント研修や実際の支援をとおして利用者や関係者が得られるものは何か—研修受講者と利用者へのアンケート調査より—」『日本社会精神医学会雑誌』Vol. 10, No. 1, 2001, 7.
- 16) 木原活信著『Jアダムズの社会福祉実践思想の研究』川島書店、1998.
- 17) MARY E. RICHMONDO 著、小松源助約「ソーシャル・ケースワークとは何か」中央法規、1991.
- 18) 武蔵野市「武蔵野市のケアプラン指導研修事業」月刊介護保険, No. 88, 2003, 6.
- 19) 新津ふみ子「ケアマネジメントと人材の養成」http://www.dinf.ne.jp/doc/Japanese/prdl/jsrd/rehab/r088/r08_033.htm
- 20) 野中 猛『ケアマネジメント実践のコツ』筒井書房、2001.
- 21) 野中 猛「ケアマネジメント活動におけるジレンマとその解決—予備的考察—」『ケアマネジメント学』Vol.1, 2001.
- 22) 野中 猛『精神障害者リハビリテーション』中央法規、2003.
- 23) 野中 猛「ケアマネジャーに必要なチームワーク技術」老年精神医学雑誌 14, 1096-1100, 2003.
- 24) 大倉美香「行政機関に従事する保健婦に期待される実践能力に関する研究—デルファイ法を用いて—」, 日本公衆衛生誌、第 51 巻第 12 号.
- 25) 岡本玲子「ケアマネジメント過程の質を評価する尺度の開発」日本公衆衛生誌, Vol. 46, No. 6, 1999.
- 26) 岡本玲子「地域保健におけるケアマネジメント活動指標の開発」日本公衆衛生誌, Vol. 48, No. 9, 2001.
- 27) 岡本玲子「ケアマネジャー研修の問題点と方向性」『保健の科学』Vol. 43, No. 9, 700-704, 2001.
- 28) 岡本玲子「行政保健婦・士によるケアマネジメントの効果と介護保険との連動」神大医保健紀要, Vol. 16,

- pp. 39-49, 2000.
- 29) 岡本玲子『ケアマネジメントの質保証・活動指標 45』日総研, 2002.
- 30) 岡本玲子編著『対応困難な事例に学ぶケアマネジメント 質評価の視点とともに』医学書院, 2003.
- 31) 岡本五十雄『ゆらぐこころー日本人の障害と疾病の受容・克服』医歯薬出版, 2004.
- 32) 小川喜道『障害者のエンパワーメント: イギリスの障害者福祉』明石書店, 1998.
- 33) Pamela S. Dickerson, PhD, RN, BC, and Jerry A. Mansfield, MS, RN, CAN: Education for Effective Case Management Practice, The Journal of Continuing Education in Nursing, Volume 34, Number2, March/April 2003.
- 34) パトリック・W・コリガン・ダニエル・W・ギフォード編野中 猛監訳『チームを育てる』金剛出版, 2002.
- 35) Richard J. Goscha, Charles A. Rapp: The Kansas Excellence in Client-Centered Supervision Program Community Mental Health Journal, Vol. 39, No. 6, 511-522: 2003, 12.
- 36) 埼玉県健康福祉部介護保険課「チームアプローチによるケアマネジメントチェックリスト(CMCL2003)」H15年10月.
- 37) 精神障害者ケアガイドライン検討委員会「精神障害者ケアガイドライン」平成10年.
- 38) 四方克尚「介護支援専門員養成に関する問題点～介護支援専門員指導者研修及び実務研修受講試験受験の経験を通して(一般)」『医療の福祉』32巻2号.
- 39) 白澤政和『ケアマネジメントハンドブック』医学書院, 1998.
- 40) 白澤政和『厚生科学研究: 障害者ケアマネジメントの総合的推進に関する研究』平成16年6月24. 13年度総括・分担研究報告書」2002, 3.
- 41) Suzanne Steffan Dickerson, DNS, RN. Donna Peters, MS, RN. Jennifer A. Walkowiak, MS, RN. Carol Brewer, PhD, RN.: Active Learning Strategies to Teach Case Management, NURSE EDUCATOR, Volume 24 Number 5.
- 42) 身体障害者ケアマネジメント研究会・知的障害者ケアマネジメント研究会監修『新版障害者ケアマネジメント実施マニュアル』中央法規, 2002.
- 43) 竹内孝仁・白澤政和・橋本泰子監修『ケアマネジメント講座2 ケアマネジメントの実践と展開』中央法規, 2000.
- 44) 田中英樹『精神障害者の地域生活支援: 統合的モデルとコミュニティソーシャルワーク』中央法規, 2001.
- 45) 高良麻子「介護支援専門員のあり方に関する一考察」ソーシャルワーク研究, Vol. 26, No. 1, 2000.
- 46) 高室成幸「ケアマネジャーの全仕事マニュアル: ベーシック研修 Vol3」ケアタウン教育センター.
- 47) 外山義『自宅でない在宅ー高齢者の生活空間論』医学書院, 2003.

障害者ケアマネジメント研修必修項目アンケート

◆すべての項目にご記入ください。

- ① (男 ・ 女) ②年齢 (歳)
③ 現在の正式職名 () ④現在の正式名の経験年数 (年)
⑤ 障害者ケアマネジメントの経験年数 (年)
⑥ 所持している国家資格 (該当資格に○印をお付けください)
・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・看護師・保健師・その他 ()
⑦ 介護支援専門員資格 (・有 ・無)
⑧ 学歴 (専門学校・大学・大学院・その他 :)
⑨ 障害者ケアマネジメント従事者養成研修受講年度 (年度)
⑩ 上級者養成研修受講年度 (年度)
⑪ 研修内容は (・身体 ・知的 ・精神) で受講
⑫ 現在のケアマネジメント担当者数 (名)
⑬ スーパービジョンの経験 (・有 ・無)

◆すべての項目に記入されているかご確認願います。

●あなたが特に必須だと思う研修項目の番号の前の 印にシ点を付けてください (複数回答可)。

例) 1-1.

<利用者サービス>

1. 理念・考え方

- 1-1. 人間の尊厳
 1-2. 自由と平等
 1-3. 利用者主体, 自己決定, 対象主体
 1-4. セクシャリティ
 1-5. QOL
 1-6. ウェルビーイング

2. 援助姿勢・利用者サービスの姿勢

- 2-1. 専門職としての自覚と自律
 2-2. 守秘義務
 2-3. プライバシーの尊重
 2-4. 責任明確性
 2-5. インフォームドコンセント

3. 利用者サービスの基本能力

- 3-1. 観察力
- 3-3. 注意力
- 3-3. 洞察力
- 3-4. 判断力
- 3-5. 柔軟性
- 3-6. 共感性
- 3-7. 創造性

4. 自己に関すること(気づき, 自己覚知, 自己啓発, 自己成長, 自己管理)

5. 心理, 社会的視点

6. 包括的なサービス

7. 方法

- 7-1. 人間関係と信頼関係
- 7-2. コミュニケーション
- 7-3. モチベーション(内発的動機付け)
- 7-4. エンパワーメント
- 7-5. 不服と苦情解決
- 7-6. リスクマネジメントと対処方法

<障害>

1. 理念, 概念, 視点

- 1-1. 制度・歴史から見た障害の概念と特性
- 1-2. 障壁と差別
- 1-3. リハビリテーション
- 1-4. ICF の考え方
- 1-5. ノーマライゼーション
- 1-6. インクルージョン

2. 制度

- 2-1. 障害と疾病理解
- 2-2. 障害者雇用促進体制
- 2-3. 障害者支援の体制(身体障害, 精神障害, 知的障害)
- 2-4. 所得保障

3. 支援に向けて

- 3-1. 障害の特性によるニーズとケア
- 3-2. サービスの計画的整備と財源(配分)
- 3-3. 方法とサービス
- 3-4. リハビリテーション(①障害の受容, ②リカバリー, ③回復過程)
- 3-5. 住居・環境とバリアフリー
- 3-6. 住まいとアクセス
- 3-7. 異性交際
- 3-8. 援助付き母親業・父親業
- 3-9. 社会生活技能訓練(SST)
- 3-10. 認知行動療法
- 3-11. 日常生活の管理(健康管理, 金銭管理, 実質的食生活)
- 3-12. ガイドヘルプ
- 3-13. 障害乳幼児と母親
- 3-14. 権利擁護(①成年後見, ②地域権利擁護事業)
- 3-15. 福祉用具と・住宅改修に関する知識

<ケアマネジメントの知識>

□1. ケアマネジメントの概念

2. 資源の利用と開発

- 2-1. デイサービス
- 2-2. 住居サービス
- 2-3. 作業療法
- 2-4. 障害年金・手帳

□3. 薬について

- 4. セルフケアマネジメント
- 5. トータルマネジメント

<ケアマネジメントのプロセスと技術>

1. インテーク(受理)

- 1-1. 利用者の発見(日常業務の中で発見, アウトリーチ, 本人との相談, 広報活動など)
- 1-2. 機関からの紹介(頭・文書, 直接・間接, 通常業務の内外, 機関や職種のヒエラルキー)
- 1-3. 家族の相談(家族面接, 合同面接, 家庭訪問)
- 1-4. 関係作り(信頼関係, 初回面接法, 説明と同意, 問題の整理とニーズの推測)
- 1-5. 包括的な状況把握(何を把握すべきか? 生活歴, 病歴, 職歴, 家族歴, とりまく環境)

- 1-6. 受理会議の開催（対象選定の是非，支援方向の概略，費用対効果の視点，資料準備）

2. アセスメント（査定）

- 2-1. 利用者本人との関係作り（共同作業，場面を変え，モデルを提示し，相手を変えながら情報を得る）
- 2-2. 関係者からの情報収集（照会，情報の質：誰がいつ何処でどのように採取したか，5W1H）
- 2-3. ニーズの見定め（デマンドとニーズ，迷いや葛藤，モデルの提示，試行の提案）
- 2-4. セルフケア能力と限界（できるADLとしているADL，IADL，疾病性と障害の査定，肯定的視点）
- 2-5. 家族の能力と限界（家族歴，家族成員の個々の想い，それぞれの支援体制，意見調整）
- 2-6. インフォーマルケア能力と限界（友人，職場同僚，近隣，宗教，クラブ，ボランティア，セルフヘルプ活動）
- 2-7. 専門的ケアの具体的状況（専門機関，制度，専門家，5A（適量性，適質性，利便性，受容性，利用可能性）
- 2-8. 査定会議の開催（設定，招集，司会，役割分担，記録）
- 2-9. アセスメント表の作成（既存の各種ツール，ストーリー構成）

3. プランニング（計画策定）

- 3-1. 長期目標と短期目標（生活目標の設定，夢の把握，現実化する手順）
- 3-2. ニーズの優先度判定（当面急ぐニーズ領域の選択）
- 3-3. 計画会議の開催（招集，司会，運営，記録）
- 3-4. パッケージプラン策定（複数の小目標を設定し，それぞれを手順化）
- 3-5. 手順表・役割分担表（最後に表化して各自に配布）
- 3-6. 案の提示と合意（本人・家族・関係者との合意，修正合意）

4. インターベンション（介入）

- 4-1. 利用者への直接介入（能力に応じて徐々に自立性を高める，共同作業）
- 4-2. 環境への間接介入（資源のゲートキーパー，配分と開発）
- 4-3. 仲介（ブローカリング，ニーズを満足する資源を見定める，専門職の情報源）
- 4-4. 連結（リンケージ，サービス提供資源と結びつける，説明や紹介，同伴）
- 4-5. 権利擁護（アドボカシー，資源に対して，サービスを提供させるための工夫）
- 4-6. 調整（コーディネーション，親睦，合同研修，定例勉強会，共通記録様式，管理者の会議）
- 4-7. 教育・研修（助言，解説，資料配付，情報提供）
- 4-8. ネットワーク形成（カンファレンス，サービス調整会議，専門職の協会，学会や研究会）

- 4-9. 資源の開発（必要な資源や機能を発見する，機関への介入，組織への介入，行政への介入）

5. モニタリング（追跡）

- 5-1. 見守り体制作り（見守りの役割分担，連絡ルート，危機介入の想定，緊急会議）
- 5-2. 環境の見守り（資源への介入，一貫性・継続性，開発・教育・情報提供）
- 5-3. 計画の見直し（現場の情報収集，プランの調整・修正，期限の設定，定例会議）
- 5-4. 日常的な連携協力（情報交換，情緒的交流）
- 5-5. モニタリングの方法（ [利用者本人・家族・専門家]×[定量・定性]=計6種）

6. エバリュエーション（評価）

- 6-1. 計画実行度の評価（計画は予定通り実行されたか）
- 6-2. 目的達成度の評価（当初の目的は達成されたか）
- 6-3. 生活変化の評価（利用者の生活は変化したか）
- 6-4. 利用者・家族の満足度評価（支援活動に利用者とその家族は満足したか）
- 6-5. 地域資源の変化（この活動の前後で地域資源は変化したか）
- 6-6. 評価会議の開催（支援期間終了の直前にあらかじめ設定）
- 6-7. 各種評価尺度（症状評価，社会機能評価，QOL 評価，家族評価）
- 6-8. 費用対効果の考え方（効率と効用，費用とは何か）

7. ターミネーション（終結）

- 7-1. 新たなニーズの発見（新たなケアマネジメント・サイクルへ，再査定と再契約）
- 7-2. 継続支援機関への連結（情報の要約，フェイドアウト）
- 7-3. アフターケア体制（連絡先，再開可能性，危機介入の手順）

8. 関連技術

- 8-1. 記録方法（一次記録：カルテ，SOAP など，二次記録：専門職のまとめ，三次記録）
- 8-2. チームワーク（各職種・各機関の能力と限界を知る，推論する，討論する，連携方法）
- 8-3. カンファレンス（計画，設定，運営，司会，板書，記録，定例化）
- 8-4. スーパービジョン（同職種，異職種，定期的・不定期，職場内外，メディア利用，研究会）
- 8-5. ストレス対処法（体調管理，対人距離，問題解決法，ストレス発散）
- 8-6. 集団援助(グループワーク) ※8-6~8-11 は WI に追加した分
- 8-7. 外部環境へのアクセス方法

- 8-8. 家族とのかかわり (①心理教育, ②家族支援, ③家族会支援)
- 8-9. セルフヘルプ活動への支援 (①意義・支援, ②プロシューマー, ③ピアカウンセリング, ④アサーティブ・トレーニング, ⑤セルフコントロール, ⑥ナラティブアプローチ)
- 8-10. プレゼンテーション能力(の向上)
- 8-11. ケアマネジメントを実施する援助者の評価(自己評価・他者評価)

9. 技術の習得方法

- 9-1. ケアマネジメント演習
- 9-2. スーパービジョン
- 9-3. 事例検討

<地域>

1. 理念

- 1-1. 地域で暮らすことの意味

2. 姿勢

- 2-1. 生活設計, 生活時間の工夫(生活の創造)
- 2-2. 役割を持った社会参加
- 2-3. ライフサイクル(ライフステージ)
- 2-4. 虐待

3. 方法

- 3-1. 就労・労働・社会参加
 - 3-1-1. 働くことの意味
 - 3-1-2. 固体条件と環境条件
 - 3-1-3. 援助付き就労
 - 3-1-4. 就業準備性
- 3-2. ソーシャルアクション (システムへの働きかけ)
- 3-3. 行政との関わり
- 3-4. サービスの探索(公的, 民間, 草の根, 開発)
- 3-5. 社会啓発

<組織>

1. 理念

- 1-1. 組織(内と外)
- 1-2. チームワーク

2. 姿勢

- 2-1. 利用者を中心にする
- 2-2. 連携のあり方

3. 方法

- 3-1. ボランティア活動の運営
- 3-2. 人材教育
- 3-3. 情報管理
- 3-4. 予算算出と獲得
- 3-5. 組織管理評価
- 3-6. 介助者のサポートシステム

<その他必修の研修項目がありましたらお書きください>

※アンケートのご協力本当にありがとうございました。

表1 予備調査

番号	項目	人数	%	備考
1	項目1-1 人間の尊厳	15	37.5%	
2	項目1-2 自由と平等	7	17.5%	
3	項目1-3 利用者主体、自己決定、対象主体	35	87.5%	
4	項目1-4 セクシャリティ	2	5.0%	
5	項目1-5 QOL	15	37.5%	
6	項目1-6 ウェルビーイング	6	15.0%	
7	項目2-1 専門職としての自覚と自律	19	47.5%	
8	項目2-2 守秘義務	22	55.0%	
9	項目2-3 プライバシーの尊重	21	52.5%	
10	項目2-4 責任明確性	14	35.0%	
11	項目2-5 インフォームドコンセント	30	75.0%	
12	項目3-1 観察力	19	47.5%	
13	項目3-2 注意力	9	22.5%	
14	項目3-3 洞察力	25	62.5%	
15	項目3-4 判断力	22	55.0%	
16	項目3-5 柔軟性	24	60.0%	
17	項目3-6 共感性	25	62.5%	
18	項目3-7 創造性	16	40.0%	
19	自己に関すること(気づき、自己覚知、自己啓発、自己成長、自己管理)	24	60.0%	
20	心理・社会的視点	16	40.0%	
21	包括的なサービス	22	55.0%	
22	方法7-1 人間関係と信頼関係	25	62.5%	
23	方法7-2 コミュニケーション	12	30.0%	
24	方法7-3 モチベーション	22	55.0%	
25	方法7-4 エンパワーメント	29	72.5%	
26	方法7-5 不服と苦情解決	15	37.5%	
27	方法7-6 リスクマネジメントと対処方法	15	37.5%	
28	障害1-1 制度・歴史から見た障害の概念と特性	15	37.5%	
29	障害1-2 障壁と差別	16	40.0%	
30	障害1-3 リハビリテーション	21	52.5%	
31	障害1-4 ICFの考え方	11	27.5%	
32	障害1-5 ノーマライゼーション	20	50.0%	
33	障害1-6 インクルージョン	8	20.0%	
34	制度2-1 障害と疾病理解	29	72.5%	
35	制度2-2 障害者雇用促進体制	15	37.5%	
36	制度2-3 障害者支援の体制	29	72.5%	
37	制度2-4 所得保障	16	40.0%	
38	支援3-1 障害の特性によるニーズとケア	31	77.5%	
39	支援3-2 サービスの計画的整備と財源(配分)	14	35.0%	
40	支援3-3 方法とサービス	15	37.5%	
41	支援3-4 リハビリテーション①障害受容	23	57.5%	
42	支援3-4 リハビリテーション②リハビリ	16	40.0%	
43	支援3-4 リハビリテーション③回復過程	20	50.0%	
44	支援3-5 住居・環境とバリアフリー	9	22.5%	
45	支援3-6 住まいとアクセス	10	25.0%	
46	支援3-7 異性交際	4	10.0%	
47	支援3-8 援助つき母親業・父親業	2	5.0%	
48	支援3-9 社会生活技能訓練	15	37.5%	
49	支援3-10 認知行動療法	11	27.5%	
50	支援3-11 日常生活の管理	21	52.5%	
51	支援3-12 ガイドヘルプ	2	5.0%	
52	支援3-13 障害乳幼児と母親	2	5.0%	
53	支援3-14 権利擁護	22	55.0%	
54	支援3-15 福祉用具と住宅改修に関する知識	6	15.0%	

55	ケアマネジメントの知識(概念)	18	45.0%
56	資源2-1 デイサービス	14	35.0%
57	資源2-2 住居サービス	20	50.0%
58	資源2-3 作業療法	15	37.5%
59	資源2-4 障害年金	22	55.0%
60	薬について	18	45.0%
61	セルフケアマネジメント	21	52.5%
62	トータルマネジメント	18	45.0%
63	プロセス1-1 利用者の発見	25	62.5%
64	プロセス1-2 機関からの紹介	12	30.0%
65	プロセス1-3 家族の相談	22	55.0%
66	プロセス1-4 関係づくり	30	75.0%
67	プロセス1-5 包括的な状況把握	29	72.5%
68	プロセス1-6 受理会議の開催	20	50.0%
69	アセスメント2-1 利用者本人との関係づくり	23	57.5%
70	アセスメント2-2 関係者からの情報収集	16	40.0%
71	アセスメント2-3 ニーズの見定め	30	75.0%
72	アセスメント2-4 セルフケアの能力と限界	28	70.0%
73	アセスメント2-5 家族の能力と限界	17	42.5%
74	アセスメント2-6 インフォーマルケア能力と限界	16	40.0%
75	アセスメント2-7 専門的ケアの具体的状況	13	32.5%
76	アセスメント2-8 査定会議の開催	17	42.5%
77	アセスメント2-9 アセスメント表の作成	16	40.0%
78	計画3-1 長期目標と短期目標	27	67.5%
79	計画3-2 ニーズの優先度判定	25	62.5%
80	計画3-3 計画会議の開催	18	45.0%
81	計画3-4 パッケージプランの策定	16	40.0%
82	計画3-5 手順表・役割分担表	12	30.0%
83	計画3-6 案の提示と合意	20	50.0%
84	介入4-1 利用者への直接介入	28	70.0%
85	介入4-2 環境への間接介入	15	37.5%
86	介入4-3 仲介	17	42.5%
87	介入4-4 連結	17	42.5%
88	介入4-5 権利擁護	20	50.0%
89	介入4-6 調整	35	87.5%
90	介入4-7 教育・研修	11	27.5%
91	介入4-8 ネットワーク形成	25	62.5%
92	介入4-9 資源の開発	20	50.0%
93	モニタリング5-1 見守り体制作り	26	65.0%
94	モニタリング5-2 環境の見守り	19	47.5%
95	モニタリング5-3 計画の見直し	23	57.5%
96	モニタリング5-4 日常的な連携協力	18	45.0%
97	モニタリング5-5 モニタリングの方法	18	45.0%
98	評価6-1 計画実行度の評価	15	37.5%
99	評価6-2 目的達成度の評価	21	52.5%
100	評価6-3 生活変化の評価	22	55.0%
101	評価6-4 利用者・家族の満足度評価	19	47.5%
102	評価6-5 地域資源の変化	10	25.0%
103	評価6-6 評価会議の開催	12	30.0%
104	評価6-7 各種評価尺度	14	35.0%
105	評価6-8 費用対効果の考え方	11	27.5%
106	終結7-1 新たなニーズの発見	22	55.0%
107	終結7-2 継続支援機関への連結	13	32.5%
108	終結7-3 アフターケア体制	19	47.5%
109	関連技術8-1 記録方法	13	32.5%
110	関連技術8-2 チームワーク	25	62.5%

111	関連技術8-3 カンファレンス	18	45.0%
112	関連技術8-4 スーパービジョン	21	52.5%
113	関連技術8-5 ストレス対処法	14	35.0%
114	関連技術8-6 集団援助	13	32.5%
115	関連技術8-7 外部環境へのアクセス方法	6	15.0%
116	関連技術8-8 家族とのかかわり	22	55.0%
117	関連技術8-9 セルフヘルプ活動への支援	26	65.0%
118	関連技術8-10 プレゼンテーション能力	12	30.0%
119	関連技術8-11 ケアマネジメントを実施する援助者の評価	18	45.0%
120	習得9-1 ケアマネジメント演習	19	47.5%
121	習得9-2 スーパービジョン	25	62.5%
122	習得9-3 事例検討	20	50.0%
123	地域理念1-1 地域で暮らすことの意味・生活と社会参加	21	52.5%
124	日常生活2-1 生活設計、生活時間の工夫、生活の創造	18	45.0%
125	日常生活2-2 役割を持った社会参加・役割を持つ	17	42.5%
126	日常生活2-3 ライフサイクル・ライフステージから	14	35.0%
127	日常生活2-4 虐待	11	27.5%
128	方法3-1 就労・労働・社会参加	19	47.5%
129	方法3-1-1 働くことの意味・働くということ	16	40.0%
130	方法3-1-2 固体条件と環境条件	13	32.5%
131	方法3-1-3 援助つき就労	24	60.0%
132	方法3-1-4 就業準備性	16	40.0%
133	方法3-2 ソーシャルアクション	18	45.0%
134	方法3-3 行政とのかかわり	12	30.0%
135	方法3-4 サービスの探索	22	55.0%
136	方法3-5 社会啓発	13	32.5%
137	組織1-1 組織のありかた	11	27.5%
138	組織1-2 チームワーク	24	60.0%
139	姿勢2-1 利用者を中心にする	27	67.5%
140	姿勢2-2 連携のあり方	22	55.0%
141	組織方法3-1 ボランティア活動の運営	13	32.5%
142	組織方法3-2 人材教育	18	45.0%
143	組織3-3 情報管理	11	27.5%
144	組織3-4 予算算出と獲得	7	17.5%
145	組織3-5 組織管理評価	6	15.0%
146	組織3-6 介助者のサポートシステム	11	27.5%

表1 予備調査

番号	項目	人数	%	備考
1	項目1-3 利用者主体、自己決定、対象主体	35	87.5%	
2	介入4-6 調整	35	87.5%	
3	支援3-1 障害の特性によるニーズとケア	31	77.5%	
4	プロセス1-4 関係づくり	30	75.0%	
5	項目2-5 インフォームドコンセント	30	75.0%	
6	アセスメント2-3 ニーズの見定め	30	75.0%	
7	方法7-4 エンパワーメント	29	72.5%	
8	プロセス1-5 包括的な状況把握	29	72.5%	
9	制度2-3 障害者支援の体制	29	72.5%	
10	制度2-1 障害と疾病理解	29	72.5%	
11	介入4-1 利用者への直接介入	28	70.0%	
12	アセスメント2-4 セルフケアの能力と限界	28	70.0%	
13	姿勢2-1 利用者を中心にする	27	67.5%	
14	計画3-1 長期目標と短期目標	27	67.5%	
15	モニタリング5-1 見守り体制作り	26	65.0%	
16	関連技術8-9 セルフヘルプ活動への支援	26	65.0%	
17	方法7-1 人間関係と信頼関係	25	62.5%	
18	プロセス1-1 利用者の発見	25	62.5%	
19	習得9-2 スーパービジョン	25	62.5%	
20	項目3-6 共感性	25	62.5%	
21	項目3-3 洞察力	25	62.5%	
22	計画3-2 ニーズの優先度判定	25	62.5%	
23	関連技術8-2 チームワーク	25	62.5%	
24	介入4-8 ネットワーク形成	25	62.5%	
25	方法3-1-3 援助つき就労	24	60.0%	
26	組織1-2 チームワーク	24	60.0%	
27	自己に関すること(気づき、自己覚知、自己啓発、自己成長、自己管理)	24	60.0%	
28	項目3-5 柔軟性	24	60.0%	
29	モニタリング5-3 計画の見直し	23	57.5%	
30	支援3-4 リハビリテーション①障害受容	23	57.5%	
31	アセスメント2-1 利用者本人との関係づくり	23	57.5%	
32	方法7-3 モチベーション	22	55.0%	
33	方法3-4 サービスの探索	22	55.0%	
34	包括的なサービス	22	55.0%	
35	プロセス1-3 家族の相談	22	55.0%	
36	評価6-3 生活変化の評価	22	55.0%	
37	終結7-1 新たなニーズの発見	22	55.0%	
38	姿勢2-2 連携のあり方	22	55.0%	
39	資源2-4 障害年金	22	55.0%	
40	支援3-14 権利擁護	22	55.0%	
41	項目3-4 判断力	22	55.0%	
42	項目2-2 守秘義務	22	55.0%	
43	関連技術8-8 家族とのかかわり	22	55.0%	
44	評価6-2 目的達成度の評価	21	52.5%	
45	地域理念1-1 地域で暮らすことの意味・生活と社会参加	21	52.5%	
46	セルフケアマネジメント	21	52.5%	
47	障害1-3 リハビリテーション	21	52.5%	
48	支援3-11 日常生活の管理	21	52.5%	
49	項目2-3 プライバシーの尊重	21	52.5%	
50	関連技術8-4 スーパービジョン	21	52.5%	

51	支援3-4 リハビリテーション③回復過程	20	50.0%	
52	プロセス1-6 受理会議の開催	20	50.0%	
53	障害1-5 ノーマライゼーション	20	50.0%	
54	習得9-3 事例検討	20	50.0%	
55	資源2-2 住居サービス	20	50.0%	
56	計画3-6 案の提示と合意	20	50.0%	
57	介入4-9 資源の開発	20	50.0%	
58	介入4-5 権利擁護	20	50.0%	
59	モニタリング5-2 環境の見守り	19	47.5%	
60	方法3-1 就労・労働・社会参加	19	47.5%	
61	評価6-4 利用者・家族の満足度評価	19	47.5%	
62	習得9-1 ケアマネジメント演習	19	47.5%	
63	終結7-3 アフターケア体制	19	47.5%	
64	項目3-1 観察力	19	47.5%	
65	項目2-1 専門職としての自覚と自律	19	47.5%	
66	モニタリング5-5 モニタリングの方法	18	45.0%	
67	モニタリング5-4 日常的な連携協力	18	45.0%	
68	方法3-2 ソーシャルアクション	18	45.0%	
69	日常生活2-1 生活設計、生活時間の工夫、生活の創造	18	45.0%	
70	トータルマネジメント	18	45.0%	
71	組織方法3-2 人材教育	18	45.0%	
72	計画3-3 計画会議の開催	18	45.0%	
73	ケアマネジメントの知識(概念)	18	45.0%	
74	薬について	18	45.0%	
75	関連技術8-3 カンファレンス	18	45.0%	
76	関連技術8-11 ケアマネジメントを実施する援助者の評価	18	45.0%	
77	日常生活2-2 役割を持った社会参加・役割を持つ	17	42.5%	
78	介入4-4 連結	17	42.5%	
79	介入4-3 仲介	17	42.5%	
80	アセスメント2-8 査定会議の開催	17	42.5%	
81	アセスメント2-5 家族の能力と限界	17	42.5%	
82	支援3-4 リハビリテーション②リカバリー	16	40.0%	
83	方法3-1-4 就業準備性	16	40.0%	
84	方法3-1-1 働くことの意義・働くということ	16	40.0%	
85	制度2-4 所得保障	16	40.0%	
86	心理・社会的視点	16	40.0%	
87	障害1-2 障壁と差別	16	40.0%	
88	項目3-7 創造性	16	40.0%	
89	計画3-4 パッケージプランの策定	16	40.0%	
90	アセスメント2-9 アセスメント表の作成	16	40.0%	
91	アセスメント2-6 インフォーマルケア能力と限界	16	40.0%	
92	アセスメント2-2 関係者からの情報収集	16	40.0%	
93	方法7-6 リスクマネジメントと対処方法	15	37.5%	
94	方法7-5 不服と苦情解決	15	37.5%	
95	評価6-1 計画実行度の評価	15	37.5%	
96	制度2-2 障害者雇用促進体制	15	37.5%	
97	障害1-1 制度・歴史から見た障害の概念と特性	15	37.5%	
98	資源2-3 作業療法	15	37.5%	
99	支援3-9 社会生活技能訓練	15	37.5%	

100	支援3-3 方法とサービス	15	37.5%	
101	項目1-5 QOL	15	37.5%	
102	項目1-1 人間の尊厳	15	37.5%	
103	介入4-2 環境への間接介入	15	37.5%	
104	評価6-7 各種評価尺度	14	35.0%	
105	日常生活2-3 ライフサイクル・ライフステージから	14	35.0%	
106	資源2-1 デイサービス	14	35.0%	
107	支援3-2 サービスの計画的整備と財源(配分)	14	35.0%	
108	項目2-4 責任明確性	14	35.0%	
109	関連技術8-5 ストレス対処法	14	35.0%	
110	方法3-5 社会啓発	13	32.5%	
111	方法3-1-2 固体条件と環境条件	13	32.5%	
112	組織方法3-1 ボランティア活動の運営	13	32.5%	
113	終結7-2 継続支援機関への連結	13	32.5%	
114	関連技術8-6 集団援助	13	32.5%	
115	関連技術8-1 記録方法	13	32.5%	
116	アセスメント2-7 専門的ケアの具体的状況	13	32.5%	
117	方法7-2 コミュニケーション	12	30.0%	
118	方法3-3 行政とのかかわり	12	30.0%	
119	プロセス1-2 機関からの紹介	12	30.0%	
120	評価6-6 評価会議の開催	12	30.0%	
121	計画3-5 手順表・役割分担表	12	30.0%	
122	関連技術8-10 プレゼンテーション能力	12	30.0%	
123	評価6-8 費用対効果の考え方	11	27.5%	
124	日常生活2-4 虐待	11	27.5%	
125	組織3-6 介助者のサポートシステム	11	27.5%	
126	組織3-3 情報管理	11	27.5%	
127	組織1-1 組織のありかた	11	27.5%	
128	障害1-4 ICFの考え方	11	27.5%	
129	支援3-10 認知行動療法	11	27.5%	
130	介入4-7 教育・研修	11	27.5%	
131	評価6-5 地域資源の変化	10	25.0%	
132	支援3-6 住まいとアクセス	10	25.0%	
133	支援3-5 住居・環境とバリアフリー	9	22.5%	
134	項目3-2 注意力	9	22.5%	
135	障害1-6 インクルージョン	8	20.0%	
136	組織3-4 予算算出と獲得	7	17.5%	
137	項目1-2 自由と平等	7	17.5%	
138	組織3-5 組織管理評価	6	15.0%	
139	支援3-15 福祉用具と住宅改修に関する知識	6	15.0%	
140	項目1-6 ウェルビーイング	6	15.0%	
141	関連技術8-7 外部環境へのアクセス方法	6	15.0%	
142	支援3-7 異性交際	4	10.0%	
143	支援3-8 援助つき母親業・父親業	2	5.0%	
144	支援3-13 障害乳幼児と母親	2	5.0%	
145	支援3-12 ガイドヘルプ	2	5.0%	
146	項目1-4 セクシャリティ	2	5.0%	

表2 障害者ケアマネジメント従事者

番号	項目	人数	%
1	項目1-1 人間の尊厳	239	52.1%
2	項目1-2 自由と平等	99	21.6%
3	項目1-3 利用者主体、自己決定、対象主体	393	85.6%
4	項目1-4 セクシャリティ	39	8.5%
5	項目1-5 QOL	205	44.7%
6	項目1-6 ウェルビーイング	69	15.0%
7	項目2-1 専門職としての自覚と自律	284	61.9%
8	項目2-2 守秘義務	198	43.1%
9	項目2-3 プライバシーの尊重	209	45.5%
10	項目2-4 責任明確性	144	31.4%
11	項目2-5 インフォームドコンセント	270	58.8%
12	項目3-1 観察力	280	61.0%
13	項目3-2 注意力	113	24.6%
14	項目3-3 洞察力	210	45.8%
15	項目3-4 判断力	258	56.2%
16	項目3-5 柔軟性	275	59.9%
17	項目3-6 共感性	254	55.3%
18	項目3-7 創造性	197	42.9%
19	自己に関すること(気づき、自己覚知、自己啓発、自己成長、自己管理)	271	59.0%
20	心理・社会的視点	187	40.7%
21	包括的なサービス	218	47.5%
22	方法7-1 人間関係と信頼関係	301	65.6%
23	方法7-2 コミュニケーション	229	49.9%
24	方法7-3 モチベーション	147	32.0%
25	方法7-4 エンパワーメント	280	61.0%
26	方法7-5 不服と苦情解決	95	20.7%
27	方法7-6 リスクマネジメントと対処方法	176	38.3%
28	障害1-1 制度・歴史から見た障害の概念と特性	102	22.2%
29	障害1-2 障壁と差別	152	33.1%
30	障害1-3 リハビリテーション	152	33.1%
31	障害1-4 ICFの考え方	134	29.2%
32	障害1-5 ノーマライゼーション	278	60.6%
33	障害1-6 インクルージョン	83	18.1%
34	制度2-1 障害と疾病理解	163	35.5%
35	制度2-2 障害者雇用促進体制	182	39.7%
36	制度2-3 障害者支援の体制	381	83.0%
37	制度2-4 所得保障	160	34.9%
38	支援3-1 障害の特性によるニーズとケア	279	60.8%
39	支援3-2 サービスの計画的整備と財源(配分)	193	42.0%
40	支援3-3 方法とサービス	187	40.7%
41	支援3-4 リハビリテーション	133	29.0%
42	支援3-5 住居・環境とバリアフリー	114	24.8%
43	支援3-6 住まいとアクセス	79	17.2%
44	支援3-7 異性交際	72	15.7%
45	支援3-8 援助つき母親業・父親業	43	9.4%
46	支援3-9 社会生活技能訓練	133	29.0%

47	支援3-10 認知行動療法	89	19.4%
48	支援3-11 日常生活の管理	221	48.1%
49	支援3-12 ガイドヘルプ	84	18.3%
50	支援3-13 障害乳幼児と母親	67	14.6%
51	支援3-14 権利擁護	249	54.2%
52	支援3-15 福祉用具と住宅改修に関する知識	93	20.3%
53	ケアマネジメントの知識(概念)	246	53.6%
54	資源2-1 デイサービス	195	42.5%
55	資源2-2 住居サービス	209	45.5%
56	資源2-3 作業療法	112	24.4%
57	資源2-4 障害年金 手帳	221	48.1%
58	ケアマネジメントの知識 薬について	160	34.9%
59	セルフケアマネジメント	204	44.4%
60	トータルマネジメント	253	55.1%
61	プロセス1-1 利用者の発見	202	44.0%
62	プロセス1-2 機関からの紹介	101	22.0%
63	プロセス1-3 家族の相談	219	47.7%
64	プロセス1-4 関係づくり	303	66.0%
65	プロセス1-5 包括的な状況把握	251	54.7%
66	プロセス1-6 受理会議の開催	145	31.6%
67	アセスメント2-1 利用者本人との関係づくり	254	55.3%
68	アセスメント2-2 関係者からの情報収集	178	38.8%
69	アセスメント2-3 ニーズの見定め	275	59.9%
70	アセスメント2-4 セルフケアの能力と限界	221	48.1%
71	アセスメント2-5 家族の能力と限界	204	44.4%
72	アセスメント2-6 インフォーマルケア能力と限界	170	37.0%
73	アセスメント2-7 専門的ケアの具体的状況	179	39.0%
74	アセスメント2-8 査定会議の開催	117	25.5%
75	アセスメント2-9 アセスメント表の作成	179	39.0%
76	計画3-1 長期目標と短期目標	295	64.3%
77	計画3-2 ニーズの優先度判定	279	60.8%
78	計画3-3 計画会議の開催	154	33.6%
79	計画3-4 パッケージプランの策定	142	30.9%
80	計画3-5 手順表・役割分担表	115	25.1%
81	計画3-6 案の提示と合意	196	42.7%
82	介入4-1 利用者への直接介入	249	54.2%
83	介入4-2 環境への間接介入	149	32.5%
84	介入4-3 仲介(ブローカリング)	164	35.7%
85	介入4-4 連結(リンケージ)	143	31.2%
86	介入4-5 権利擁護	183	39.9%
87	介入4-6 調整	201	43.8%
88	介入4-7 教育・研修	87	19.0%
89	介入4-8 ネットワーク形成	217	47.3%
90	介入4-9 資源の開発	232	50.5%
91	モニタリング5-1 見守り体制作り	245	53.4%
92	モニタリング5-2 環境の見守り	142	30.9%
93	モニタリング5-3 計画の見直し	260	56.6%
94	モニタリング5-4 日常的な連携協力	117	25.5%

95	モニタリング5-5 モニタリングの方法	186	40.5%
96	評価6-1 計画実行度の評価	185	40.3%
97	評価6-2 目的達成度の評価	238	51.9%
98	評価6-3 生活変化の評価	235	51.2%
99	評価6-4 利用者・家族の満足度評価	270	58.8%
100	評価6-5 地域資源の変化	141	30.7%
101	評価6-6 評価会議の開催	112	24.4%
102	評価6-7 各種評価尺度	151	32.9%
103	評価6-8 費用対効果の考え方	118	25.7%
104	終結7-1 新たなニーズの発見	225	49.0%
105	終結7-2 継続支援機関への連結	188	41.0%
106	終結7-3 アフターケア体制	256	55.8%
107	関連技術8-1 記録方法	213	46.4%
108	関連技術8-2 チームワーク	296	64.5%
109	関連技術8-3 カンファレンス	214	46.6%
110	関連技術8-4 スーパービジョン	199	43.4%
111	関連技術8-5 ストレス対処法	144	31.4%
112	関連技術8-6 集団援助	104	22.7%
113	関連技術8-7 外部環境へのアクセス方法	81	17.6%
114	関連技術8-8 家族とのかかわり	195	42.5%
115	関連技術8-9 セルフヘルプ活動への支援	127	27.7%
116	関連技術8-10 プレゼンテーション能力	84	18.3%
117	関連技術8-11 ケアマネジメントを実施する援助者の評価	174	37.9%
118	習得9-1 ケアマネジメント演習	274	59.7%
119	習得9-2 スーパービジョン	186	40.5%
120	習得9-3 事例検討	271	59.0%
121	地域理念1-1 地域で暮らすことの意味・生活と社会参加	266	58.0%
122	日常生活2-1 生活設計、生活時間の工夫、生活の創造	208	45.3%
123	日常生活2-2 役割を持った社会参加・役割を持つ	202	44.0%
124	日常生活2-3 ライフサイクル・ライフステージから	166	36.2%
125	日常生活2-4 虐待	92	20.0%
126	方法3-1 就労・労働・社会参加	100	21.8%
127	方法3-1-1 働くことの意味・働くということ	201	43.8%
128	方法3-1-2 固体条件と環境条件	99	21.6%
129	方法3-1-3 援助つき就労	199	43.4%
130	方法3-1-4 就業準備性	130	28.3%
131	方法3-2 ソーシャルアクション	157	34.2%
132	方法3-3 行政とのかかわり	183	39.9%
133	方法3-4 サービスの探索	195	42.5%
134	方法3-5 社会啓発	125	27.2%
135	方法3-6 連携(ネットワーク、ソーシャルサポート)	245	53.4%
136	組織1-1 組織のありかた	172	37.5%
137	組織1-2 チームワーク	286	62.3%
138	姿勢2-1 利用者を中心にする	299	65.1%
139	姿勢2-2 連携のあり方	197	42.9%
140	組織方法3-1 ボランティア活動の運営	130	28.3%
141	組織方法3-2 人材教育	214	46.6%
142	組織3-3 情報管理	146	31.8%

143	組織3-4 予算算出と獲得	113	24.6%
144	組織3-5 組織管理評価	72	15.7%
145	組織3-6 介助者のサポートシステム	188	41.0%
146	組織3-7 運営管理	102	22.2%

表2 障害者ケアマネジメント従事者

番号	項目	人数	%	備考
1	項目1-3 利用者主体、自己決定、対象主体	393	85.6%	
2	制度2-3 障害者支援の体制	381	83.0%	
3	プロセス1-4 関係づくり	303	66.0%	
4	方法7-1 人間関係と信頼関係	301	65.6%	
5	姿勢2-1 利用者を中心にする	299	65.1%	
6	関連技術8-2 チームワーク	296	64.5%	
7	計画3-1 長期目標と短期目標	295	64.3%	
8	組織1-2 チームワーク	286	62.3%	
9	項目2-1 専門職としての自覚と自律	284	61.9%	
10	方法7-4 エンパワーメント	280	61.0%	
11	項目3-1 観察力	280	61.0%	
12	支援3-1 障害の特性によるニーズとケア	279	60.8%	
13	計画3-2 ニーズの優先度判定	279	60.8%	
14	障害1-5 ノーマライゼーション	278	60.6%	
15	項目3-5 柔軟性	275	59.9%	
16	アセスメント2-3 ニーズの見定め	275	59.9%	
17	習得9-1 ケアマネジメント演習	274	59.7%	
18	習得9-3 事例検討	271	59.0%	
19	自己に関すること(気づき、自己覚知、自己啓発、自己成長、自己管理)	271	59.0%	
20	評価6-4 利用者・家族の満足度評価	270	58.8%	
21	項目2-5 インフォームドコンセント	270	58.8%	
22	地域理念1-1 地域で暮らすことの意味・生活と社会参加	266	58.0%	
23	モニタリング5-3 計画の見直し	260	56.6%	
24	項目3-4 判断力	258	56.2%	
25	終結7-3 アフターケア体制	256	55.8%	
26	項目3-6 共感性	254	55.3%	
27	アセスメント2-1 利用者本人との関係づくり	254	55.3%	
28	トータルマネジメント	253	55.1%	
29	プロセス1-5 包括的な状況把握	251	54.7%	
30	支援3-14 権利擁護	249	54.2%	
31	介入4-1 利用者への直接介入	249	54.2%	
32	ケアマネジメントの知識(概念)	246	53.6%	
33	モニタリング5-1 見守り体制作り	245	53.4%	
34	方法3-6 連携(ネットワーク、ソーシャルサポート)	245	53.4%	
35	項目1-1 人間の尊厳	239	52.1%	
36	評価6-2 目的達成度の評価	238	51.9%	
37	評価6-3 生活変化の評価	235	51.2%	
38	介入4-9 資源の開発	232	50.5%	
39	方法7-2 コミュニケーション	229	49.9%	
40	終結7-1 新たなニーズの発見	225	49.0%	
41	資源2-4 障害年金 手帳	221	48.1%	
42	支援3-11 日常生活の管理	221	48.1%	
43	アセスメント2-4 セルフケアの能力と限界	221	48.1%	
44	プロセス1-3 家族の相談	219	47.7%	
45	包括的なサービス	218	47.5%	
46	介入4-8 ネットワーク形成	217	47.3%	
47	組織方法3-2 人材教育	214	46.6%	
48	関連技術8-3 カンファレンス	214	46.6%	
49	関連技術8-1 記録方法	213	46.4%	
50	項目3-3 洞察力	210	45.8%	